

# 穂の国 34. 通信

## お客様の夢を喜望へ、 喜望を製品へ、そして進化へ

初めのあいさつ  
会社の歳時記  
技術の時間  
ちょっとコーヒータイム  
穂の国 34. とは

創刊号の挨拶

(有)今泉大伸

〒441-3131

愛知県豊橋市大岩町字小山塚 6 2 - 2 8

:0532-41-8282

FAX:0532-41-8297

<http://www.imaizumidaishin.co.jp>

### 初めのあいさつ

みなさんには いつもお世話になっております。

今日より定期的にニュースレターを発刊することとなりました。

まず、初めに当社は**技術を持って、お客様の生きる方向をサポートする**。それを柱として私共は技術を磨いてまいりました。

単機能ではなく多機能へ、設計・加工・電機が一体となることができることが、当社の強みであります。

ただ、それは反面、技術に対し怖さもあるのです。

新しいことをすればリスクはあります。新しいことをお客様より受けた時、80%は可能なら、お受け致します。ただ20%は試考の内なのです。

そのような時、お客様に強く言うこともあります。ただ、お客様は、言われるのはイヤだと思います。



私共も**はい、そうです**と答えれば良いと思いますし、その方が嬉しいですね。ただ、商品の責任としてはどうでしょうか？

自信のないことに対しては反論しなくてはいけない時もあります。

特に人命・賠償が懸かる時などです。

**当社ホームページのお役立ち情報にも書かれております。一読していただけると幸いです。**

また、内面に目を向けた時  
社員にも家族があり、生活もあります。  
例えば納期的に無理がある。  
他とのバランスを考えた時、どうしても  
社員の体調が心配な場合がございます。そ  
んな時は当社でもセーブするする場合がご  
ざいます。

それはなぜか。後述の技術の時間でも紹  
介しています。

**生き残る技術**でも書かれていますが、心  
の限界と体力の限界というものが人間には  
あります。

20代では徹夜も平気でした。しかし50代  
になり、60代になれば当然体力的に無理は  
できません。特に技能を持った人というの  
は年齢が高いです。

だからこそ体力的な無理はできないので  
す。  
無理が内部の崩壊を招くからです。 私た  
ちはそのような会社の存亡に係わる危機を  
二度ほど経験してきました。

一度目は、体力的な無理による**交通事  
故**による内部崩壊。

二度目は、客先の無理による**賠償の問  
題**による内部崩壊。

ただ、自分たちがお客様の言われるこ  
とに反論したり、時にお待ちしていただ  
いた場合など、平然としている訳ではな  
いのです。

心の中には天使と悪魔が存在していて、  
天使は「納得のいく良いものを出すこと  
が大事」とささやく。

一方で悪魔は「お客の意に添えないとお  
客を失うよ、それでもいいの!!」とささや  
くのです。

そして、リスクを回避すべくお客様に強  
く言う時は「ごめんなさい」と手を合わせ  
ているのです。心の中で...!!



そして私は構造偽装の問題があった時、  
他人事ではありませんでした。  
むしろ、自分自身も、一步間違えれば同じこ  
とになっていたと思うのです。  
現に無理をしたせいで、会社の存亡にまで  
関わることになった事態も、目の当たりに  
してきました。

その時なぜ、強く言えなかったのかと思う  
時もありました。  
だから、冷静に考えた時どちらが得なの？

私たちは、天使の言葉に耳を傾けたい  
と思っています。  
必要とされれば一生懸命やらせていただ  
きます。

今後ともよろしく  
お願い致します。



## 会社の歳時記

自動車の部品メーカー アイシンの商品開発より電話があり、レバー1つで中間停止するシリンダーを開発してほしいとの依頼がありました。

納期として二週間でというお話しでした。

当社ではさっそく設計、アイシンの方へは試行錯誤の中で製作、特急で!!、現物を納入させていただきました。

今回両ロットでは、この機能は複雑ではないのだが、シリンダーを長くしたくないということで設計しました。

(下記は両ロットではありません)

一番の心配は、回路の長さ及び配管の太さが変わってくるので、その為の油の補給をどうするのが課題でした。

そこで、特殊なチェック弁を作ること

で解決しました。  
ただ今回は「試作の試作」です。自動車部品は一步まちがえるとリコールの対象として本当に怖くなりますので、まだ試作は続くでしょう。

チョットおもしろい仕事でした。

やはり80%はわかっている、あと20%はなにがあるかわからない!!

私たちがまだまだ技術を高めなければと思う、今日この頃です。



## 技術の時間

### 心の限界はない、限界を超えないと成長はない

今日は創刊号といたしまして、当社がどのようなことができ、どのようなことに感動したのかお話ししたいと思います。まず、当社は設計(機械・電気)加工(部品製作)組み付けという過程を経て一つにまとめあげるのが当社です。

それを内製化し、少ない人数でこなしております。

多くの人を抱えれば、それだけコストがかかりますでしょ!!

少人数で効率を上げる、それが私たちのポリシーです。

難しいことにもチャレンジしております。  
詳細はホームページ  
<http://www.imaizumidaishin.co.jp> をご覧ください。

最近感動したのは、登山家 小西浩文氏・著書の『**生きる技術**』という本でした。

買ってきて、4度も5度も読み直しました。  
以前、ソニーインテリジェントダイナミクス元社長 土井利忠氏の講演を聞いたことがありました。

この人は、ソニーのロボット犬 AIBO を作った人なのですが、フローの状態の時、本当に仕事がうまくいく、技術的に困っていても解決策が見つかる、そう言うておりました。  
その時は私たちも、こんなことあるよなーと、思うくらいでした。

しかし、今回のこの本を読んで、心というものの大切さ、フロー状態(集中している状態)を作るんだ、そして、気持ちの持ち方、維持するための対処法、さらに人選についてなど本当に詳しく書かれていました。

私はこの本を読む前は、怒ったりした時、必ずと言っていいほどミスをしていたのです。

だから、いつもなぜミスをするのだろうと疑問に思っていました。  
注意していたはずなのに。



怒って気持ちを引きずっていたために、心が集中しなかった。集中しないからミスに気がつかない、この事に気づきました。

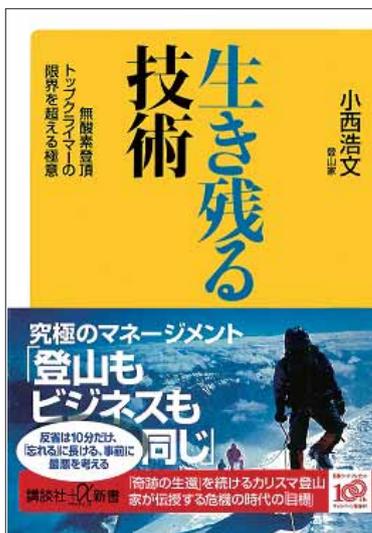
お客様の仕事の中には難しい物や、どうしても外注との関係というものもあり、その多くの人々の心を私たちは大切にしないと仕事ができないのです。

また心がこもった時、予定通りに行ったり、ミスを事前に防ぐことができたりと、本当に不思議です。

### 創刊号の初めとして**心に限界はない、限界を超えないと成長はない**

若い技術者の人達に読んでいただきたい本です。心がしっかりしないと技術もつかめないし、困難に打ち勝てません。

若い技術者には体力もあり、チャレンジができます。どうか限界にチャレンジして下さい。



講談社 小西浩文著  
「生きる技術」

## ちょっとコーヒータイム

今回の「ちょっとコーヒータイム」は韓国ドラマを紹介します。

2007年度の作品なのでご存知の方はゴメンなさい!!

### コーヒープリンス1号店

これが題名です。

50～60代ではなんじゃこのヤワな男は、と思われるかも。

しかし20代、30代、40代での話のネタくらいにはなるかも。



昔、日本でも**東京ラブストーリー**などが流行りましたが最近ではあまり見ませんね!!

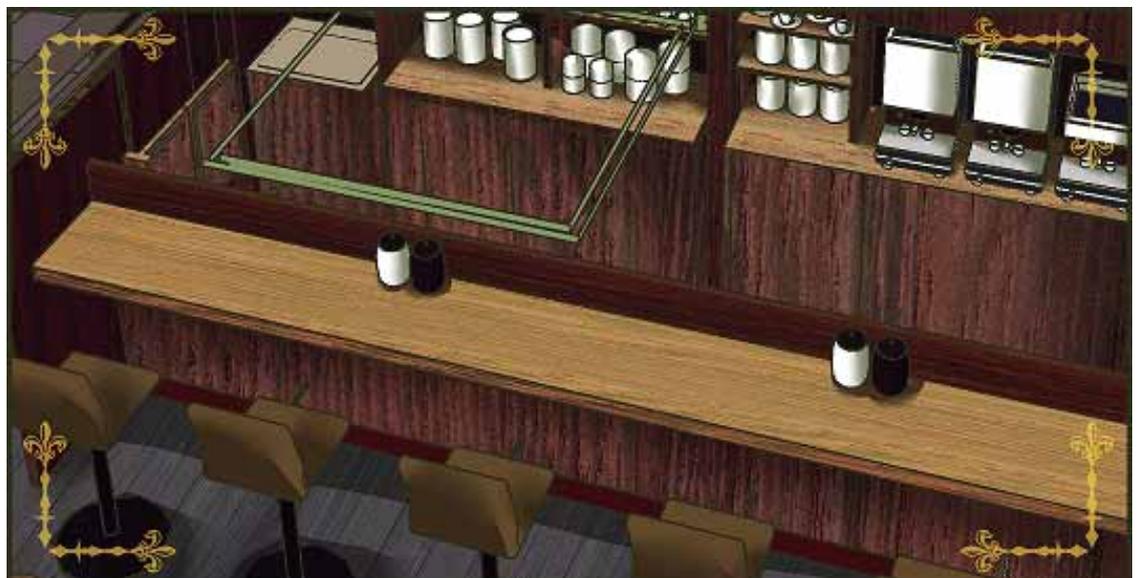
草食系男子とかよく言われ、女性が婚活する世相を反映しているのかも。だから恋愛ものはあまり出ないのかも。アメリカのタイム誌に載ったほどです。内容は是非見ていただきたいのであまり話しませんが

財閥の男の子と男のように生きてきた女の子のラブストーリーです。

その二人はケンカをしながら恋を深めていく、そんなお話です。

主人公ユン・ユネとユン・ユが普通ぽいところが共感を呼んだのかもしれないね!!

恋愛に疲れた人、ドキドキ感の失った人、一度見てみては? \ ( ° ° )



### 東海道三十四番目の 実りの国

**穂の国**とは、平安時代、豊橋・(豊川稲荷がある)豊川などの東三河地方は、穂の国と呼ばれていました。穂の国、なんとも実りのある良い言葉だと思います。

また、34. てなに？

それはもう一つの意味があります。

私共の所在地**二川**は、江戸時代の宿場町、東海道五十三次の二川宿で、東京(江戸)から34番目にあります。

ちょうど東京と大阪の中間に位置し、参勤交代や幕府討伐など、時代の流れを現実に見た場所でもあります。

明治維新や終戦の時と同じくらいの時代の変革期であると今思っています。

日本の真ん中の実りある地方よりみなさまの御役に立てることを祈って冒頭**穂の国34. 通信**として情報を発信させていただきます。

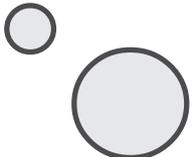
#### 五十三次の云われ

一説によると、徳川家康は、華嚴経の「入法界品」の善財童子が文殊菩薩の命により53人の師を経て普賢菩薩の所で悟りを開いたと言う一節から、江戸(穢土)から京(普賢菩薩の住まう所)への宿駅を五十三にしたと言われております。

NHK朝の連続ドラマ「ゲゲゲの女房」で今また注目の水木しげる氏が、広重の「東海道五十三次」を参考にした「妖怪道五十三次」という木版画作品を2003年に発表しています。

Wikipediaより一部引用





# Imaizumidaishin Co,.Ltd

---

〒 441-3131

愛知県豊橋市大岩町字小山塚 6 2 - 2 8

:0532-41-8282

FAX:0532-41-8297

<http://www.imaizumidaishin.co.jp>